

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4805253号
(P4805253)

(45) 発行日 平成23年11月2日(2011.11.2)

(24) 登録日 平成23年8月19日(2011.8.19)

(51) Int.Cl. F 1
G 1 O D 3/02 (2006.01)
G 1 O D 1/08 (2006.01)

G 1 O D 3/02
 G 1 O D 1/08

請求項の数 7 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2007-507811 (P2007-507811)
 (86) (22) 出願日 平成17年3月25日(2005.3.25)
 (65) 公表番号 特表2007-532964 (P2007-532964A)
 (43) 公表日 平成19年11月15日(2007.11.15)
 (86) 国際出願番号 PCT/FR2005/000737
 (87) 国際公開番号 W02005/111990
 (87) 国際公開日 平成17年11月24日(2005.11.24)
 審査請求日 平成19年10月30日(2007.10.30)
 (31) 優先権主張番号 0404059
 (32) 優先日 平成16年4月15日(2004.4.15)
 (33) 優先権主張国 フランス (FR)

前置審査

(73) 特許権者 506344745
 エヴォルーショミュージック
 フランス・9 3 1 4 0・ボンディ・リュ・
 ルイ・オーグステ・ブランキ・2 2 2 / 2
 2 4
 (74) 代理人 100108453
 弁理士 村山 靖彦
 (74) 代理人 100064908
 弁理士 志賀 正武
 (74) 代理人 100089037
 弁理士 渡邊 隆
 (74) 代理人 100110364
 弁理士 実広 信哉

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 人間工学的クラシックギター

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

底板と、響板と、側板と、ギターの脚を形成するよう構成された脚領域と、を具備してなるクラシックギターの共鳴箱であって、

使用者の大腿部に対してのしかかると共に、前記大腿部に作用する圧力を実質的に排除するようになされた角度を前記底板と共に形成するために、前記脚領域に存在すると共に前記底板内で切り取られた、第 1 の平坦な切頭部分(1)を含むことを特徴とするクラシックギターの共鳴箱。

【請求項 2】

楽器の側板と交差する前記第 1 の部分(1)によって形成される湾曲部の中間点(2)は、共鳴箱の厚みの 8 分の 1 ないし数ミリメートルの範囲に存在する間隔だけ前記響板から離れていることを特徴とする請求項 1 に記載の共鳴箱。

【請求項 3】

第 2 の実質的に平坦な切頭部分(4)を含み、この切頭部分(4)は、前記響板内で切り取られており、かつ、使用者の腕を位置させるのに適合した角度を前記響板と共に形成することを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の共鳴箱。

【請求項 4】

楽器の側板と交差する第 2 の切頭部分(4)によって形成される湾曲部の中間点(5)は、共鳴箱の厚みの 8 分の 1 ないし数ミリメートルの範囲に存在する間隔(6)だけ前記響板から離れていることを特徴とする請求項 3 に記載の共鳴箱。

10

20

【請求項 5】

前記響板と共に、前記第 2 の切頭部分によって形成される角度は約 45°であることを特徴とする請求項 3 または請求項 4 に記載の共鳴箱。

【請求項 6】

前記底板と共に、前記第 1 の切頭部分によって形成される角度は約 45°であることを特徴とする請求項 1 または請求項 5 に記載の共鳴箱。

【請求項 7】

請求項 1 ないし請求項 6 のいずれか 1 項に記載の共鳴箱を備えたことを特徴とするギター。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】**【0001】**

共鳴箱が様な厚みを有し、しかも身体との接点が鋭角であるため、今日のクラシックギターは良好な配置を不可能としている。

【背景技術】**【0002】**

楽器の音響のために必要な厚みと、クラシックギターの共鳴箱の角のある形状とが組み合わせられて、楽器使用者は、病変に至るような不快な姿勢を長期間にわたってとることを強いられる。

【発明の開示】

20

【課題を解決するための手段】**【0003】**

新機軸は、ストレスの多い姿勢をかなりの程度改善するよう設計された輪郭を呈する共鳴箱のための新規な形状にある。

【0004】

この目的のために、共鳴箱の容積を著しく減じることはできないので、肢部が良好なポジションをとることを妨害している楽器の上記部分が切り取られる。

【0005】

楽器の脚を形成する湾曲部分は、形態学的に適した角度で、たとえば楽器の底板に対して約 45°の角度で、その後部において切り取られる。

30

【0006】

このようにして形成された実質的に平坦な部分は、使用者の大腿部にのしかかり、実質的に身体はこの位置にかかる圧力を排除する。

【0007】

同時に、楽器は軸方向に高さが低くされ、しかも鼠径部に向って移動させられ、これによって右腕の偏倚運動が低減される。

【0008】

腕の偏倚運動は、響板と、腕が通常位置する地点での側板との間のコーナーの付加的な切頭部分によってさらに軽減されるが、この切頭部分は、たとえば、響板と共に約 45°の角度を形成する。

40

【発明を実施するための最良の形態】**【0009】**

図面に関係する以下の説明から、本発明を、より良く理解し得る。

【0010】

図を参照すると、図 1、図 2 および図 4 に示す部分 1 は、使用者の大腿部にのしかかる切頭部分を構成している。

【0011】

この実質的に平坦な部分 1 は、たとえば約 45°の角度を形成しており、しかも楽器の側板と、この楽器の側板と交差する部分 1 によって形成される湾曲部の中間点 2 との間に間隔 3 をもたらしめている。この間隔は、上記共鳴箱の厚みの 8 分の 1 ないし数ミリメータ

50

一の範囲に存在する。

【 0 0 1 2 】

図 1、図 2 および図 3 に示す部分 4 は、その上に使用者の腕を位置させる切頭部分を構成する。

【 0 0 1 3 】

この実質的に平坦な部分 4 は、たとえば約 45° の角度を形成しており、しかも楽器の側板と、この楽器の側板と交差する部分 4 によって形成される湾曲部の中間点 5 との間に間隔 6 をもたらしめている。この間隔は、上記共鳴箱の厚みの $\frac{8}{1}$ ない数ミリメートルの範囲に存在する。

【 0 0 1 4 】

この構成によって、クラシックギターの演奏に付き物のストレスの多い姿勢を回避するのに、そしてそれに由来する病変を回避するのに適した使用時の快適さが実現される。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 5 】

【図 1】楽器の断面図である。

【図 2】楽器の下面図である。

【図 3】楽器の正面図である。

【図 4】楽器の背面図である。

【符号の説明】

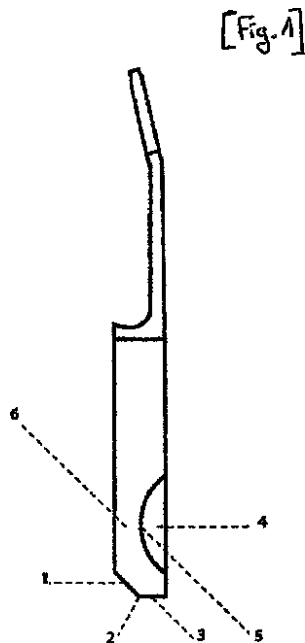
【 0 0 1 6 】

1, 4 切頭部分

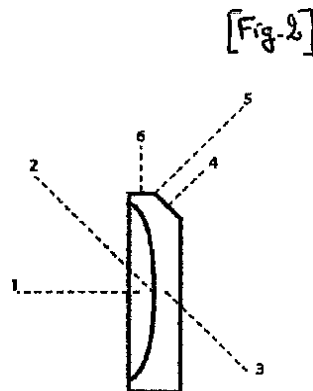
2, 5 中間点

3, 6 間隔

【図 1】



【図 2】

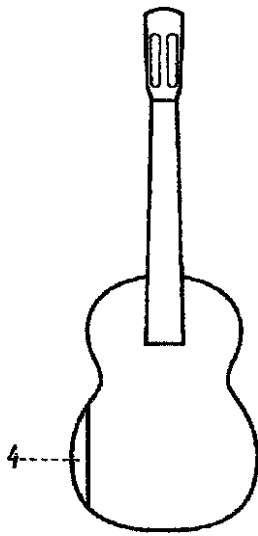


10

20

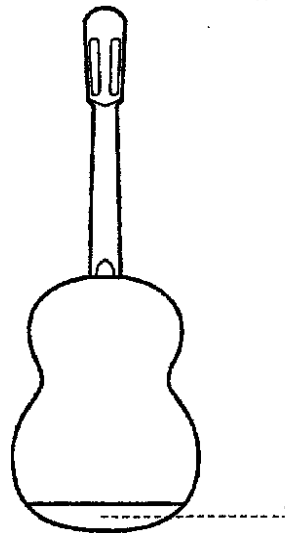
【図 3】

[Fig 3]



【図 4】

[Fig 4]



フロントページの続き

(72)発明者 クリスティアン・ボーテ
フランス・F - 4 5 2 3 0・モントボイ・シェムニン・デ・ロライン・7

審査官 間宮 嘉誉

(56)参考文献 特開平9 - 2 3 0 8 5 3 (J P , A)
特開平6 - 3 5 4 4 8 (J P , A)
特開2 0 0 7 - 5 2 1 9 6 (J P , A)
実開昭5 8 - 1 0 8 4 9 7 (J P , U)
米国特許出願公開第2 0 0 5 / 0 0 4 5 0 1 7 (U S , A 1)
米国特許出願公開第2 0 0 4 / 0 1 8 2 2 2 1 (U S , A 1)
米国特許第4 1 7 8 8 2 7 (U S , A)
米国特許第7 2 1 1 7 1 9 (U S , B 2)
特開昭5 4 - 1 3 6 8 1 5 (J P , A)
米国特許第6 3 7 6 7 5 5 (U S , B 1)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
G10D 1/00-3/18